

介護老人保健施設オアシス21

高橋 あゆみ （介護老人保健施設オアシス21 療養棟 看護師）

功 績 介護老人保健施設全国大会(兵庫)において「介護老人保健施設におけるグリーフケアの取り組み」を発表した高橋を中心としたオアシス21 ターミナルケア委員会は、12月～1月にかけて発生したクラスターの影響により12月8名、1月5名のご逝去において、グリーフケアをどのように提案できるか考えて行動しました。ご家族も涙を流して喜ばれ「最期がオアシスで良かった」と言われた功績。

推 薦 者

推 薦 理 由

看護師長 三上久美子

高橋を中心としたターミナルケア委員会のご家族との絆を大切にした愛情をもった親身な活動によりアンケートの満足度も向上されています。

また、「どのような病状の方でもオアシスの看護で（こころが）元気になる』と問い合わせ、利用希望者が殺到するという看護部の理念実現時の姿を邁進しており、利用者さんやご家族の信頼もあつくここに推薦します。

内 容

オアシス21のターミナルケア委員会の高橋は、多死社会と言われる現代日本の問題である老々介護のその後や、残されたご家族のケアなどを解決する為、様々な問題に取り組んでいました。令和4年介護老人保健施設全国大会(兵庫)でグリーフケアの発表をした高橋を中心として、最近増加の一途を辿るターミナルの方と、そのご家族の方に何ができるか考えておりました。コロナクラスターが発生した事によりターミナルに準ずる入所者さんも増え、何もせずにはいられなかった高橋は「今こそ、利用者さんにご家族との心のケアが大切。直接面会を再開して、貴重な時間とともに過ごしていただきたい。」と声を上げました。

彼女の声に野澤施設長・三上・山内介護長・多和田部長・松本部長も賛同して、面会プロジェクトは進みました。急遽、エアドクター（空気清浄機）の設置をし、1回5名5分以内の面会、使用場所は1Fの理容室か家族介護室、面会人数の制限は無しという条件で「ゴー（5人）ゴー（5分）プロジェクト」と名づけました。

ゴーゴープロジェクトが始動されたことで、遠方のご家族も久々の再開をすることができ、利用者さん、ご家族共に笑顔で感激の面会が通常的にできるようになりました。

オアシスで吐血した入所者さんは、ご家族の意向で入院しましたが、処置終了後、ご家族は「病院じゃなくてオアシスに戻って看取ってほしい。少しでも一緒にいたい。」と希望があり再入所されました。妻や娘さんとの面会を増やし再入所後3日目で再吐血され急変しましたが一緒に最期を迎えることができました。妻や娘さんは涙されていましたが、「お父さんの手のぬくもりが感じられて幸せです。」と笑顔で言っていました。

他の利用者さん、入所者さんからも「会えることができて本当に嬉しかった」「言っておきたいことが言えてよかった。」と喜ばれていました。ご家族アンケートでも「会う事ができて本当によかった。」と感謝のお言葉をたくさんいただいております。現在は全員計画面会に取り組んでおり笑顔いっぱいの幸せな思い出をつくっています。